
一方通行

minimum

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一方通行

【コード】

N9623G

【作者名】

minimum

【あらすじ】

蘭が哀に対して抱える想いは…。

(前書き)

ベースは(恋愛関係かどうかはわかりませんが)ほんのりコ哀です。
苦手な方はbackして下さい。

「…あら、哀ちゃん？」

学校の帰り道。もうすぐ始まる期末試験のため、私は学校近くの本屋へ来ていた。

その入口から偶然見えた、赤みがかった綺麗な茶髪の小さな女の子。

灰原哀ちゃん。

いつもコナン君の隣にいて、大人以上に大人な雰囲気醸し出している不思議な子。

どっちかと言うとあまり表情は表に出さないし、探偵団の皆みたいに会話を多くすることもないけれど、圧倒的な存在感が彼女には…
…ある。

時折出される言葉の端々には、かなり高度な知性を窺い知ることができるし、一つ一つの仕草がとても洗練されている（まだ小学1年生なのに）。

時々、彼女の方が年上なのではないかと勘違いしそうになる。

どこか異国を思わせる瞳を見れば、いつも哀しそうな光が宿っているし、やけにその視線が大人っぽくてドキツとする（何度も言うが、まだ小学1年生だ）。

どうしてそんなに哀しそうなの？

どうして私を見る眼差しは、より一層哀しみが深くなるの？

貴女のその小さな背に、一体どれほどのものが押し掛かっているというの？

「あら、蘭さん。こんにちは。」

ほら、今だって哀しそう。

顔は笑っているのに瞳は笑えてないよ。哀ちゃん、気づいてる？

「哀ちゃん、また随分難しそうなお本読むんだねえ。」

「…あ、これはたまたま目に付いて…。ただ興味があっただけです。」

興味があったって、それ医学書でしょ？しかも日本語どころか英語でもなさそう…。

「私、そろそろ帰らなきゃいけないので。蘭さん、お先に失礼します。」

礼儀正しい彼女はペコッと可愛らしくお辞儀をして、走って私の元を去って行った。

たくさん思うところはあるけれど。

きっと私が聞くべきことじゃない。

私の役目じゃない。

コナン君なら何か知っっているのかな…？

あの二人はいつも皮肉の応酬ばかりしているみたいだけど（私にはそんな素振りも見せないのに）、それってお互いの前では、遠慮も何もなく素でいられるってことだよな。

だからあんなに二人でいることが自然に見えるんだ…。

哀ちゃんの素顔を見られるのはきつとコナン君だけ。

哀ちゃんの疵キズに触れていいのもコナン君だけ。

哀ちゃんの心を癒せるのもコナン君だけ…。

ふふっ、なんだか悔しいなあ。

確かコナン君は、新一と一緒にレーズンが嫌いだったはず…。

よしっ！しばらくは朝食にレーズンパンを出すことに決定！！

……哀ちゃん、いつかきつと心の底からの満面な笑顔を見せてくれるよね？

(後書き)

蘭ちゃんが哀ちゃんを大好き♡…という妄想です。

ホントは蘭ちゃんが哀ちゃんを疑う、という話になる予定でしたが、
いつの間にもやら別の話に変わってました。小説って難しいですね…
…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9623g/>

一方通行

2010年11月9日07時04分発行